



第4回企業・医療機関・行政連絡調整会議資料

令和7年10月9日（木）17時から
アートホテル鹿島セントラル 2階 鳳凰の間

目 次

議題 1	企業・医療機関・行政連絡調整会議設置規約の一部改正について	2
議題 2	市内の医療の現状等について	4
議題 3	課題案件等の取組状況について	17
議題 4	その他の情報提供について	30
参考資料		41

議題 1 企業・医療機関・行政連絡調整会議設置規約の一部改正について

企業・医療機関・行政連絡調整会議において、課題解決方策の検討や連携した取組の促進を図るため、下記のとおり連絡調整会議の参加機関に「医療法人玉心会」、「医療法人玉心会 鹿島ハートクリニック」を加えるようとするものです。

企業・医療機関・行政連絡調整会議設置規約の一部を次のように改正する。

別表第 1 及び別表第 2 を次のように改める。

別表第 1（第 3 条関係）

区分	参加機関	委 員	摘要
企業	鹿島東部コンビナート（幹事会社）	工場長	
	鹿島東部コンビナート（次期幹事会社）	工場長	
	鹿島臨海工業地帯西部地区企業連絡会（幹事会社）	工場長	
	鹿島臨海工業地帯西部地区企業連絡会（次期幹事会社）	工場長	
	波崎地区企業連絡会（幹事会社）	工場長	
	波崎地区企業連絡会（次期幹事会社）	工場長	
医療 機関	鹿島医師会	神栖支部長	
	社会福祉法人恩賜財団済生会 神栖済生会病院	病院長	
	社会福祉法人白十字会 白十字総合病院	病院長	
	医療法人玉心会	理事長	
	東部地区健康管理クリニック	院長	
	神栖産業医トレーニングセンター	統括指導医	
行政	潮来保健所	所長	
	鹿島地方事務組合消防本部	消防長	
	神栖市役所	市長	

※企業の参加機関については、上記に関わらず各地区の合意により選出された機関とすることができるものとする。

別表第2（第6条関係）

参加機関	幹 事	摘要
鹿島東部コンビナート（幹事会社）	・ 事務部長 ・ 総務部長 ・ 渉外責任者など	
鹿島東部コンビナート（次期幹事会社）		
鹿島臨海工業地帯西部地区企業連絡会（幹事会社）		
鹿島臨海工業地帯西部地区企業連絡会（次期幹事会社）		
波崎地区企業連絡会（幹事会社）		
波崎地区企業連絡会（次期幹事会社）		
社会福祉法人恩賜財団済生会 神栖済生会病院	事務部長	
社会福祉法人白十字会 白十字総合病院	事務部長	
医療法人玉心会 鹿嶋ハートクリニック	事務長	
神栖産業医トレーニングセンター	統括指導医	
潮来保健所	地域保健推進室長	
鹿島地方事務組合消防本部	救急救助課長	
神栖市役所	医療対策監	
神栖市役所	地域医療推進課長	

※企業の参加機関については、上記に関わらず各地区の合意により選出された機関とすることができるものとする。

付 則

この規約は、令和7年10月9日から施行する。

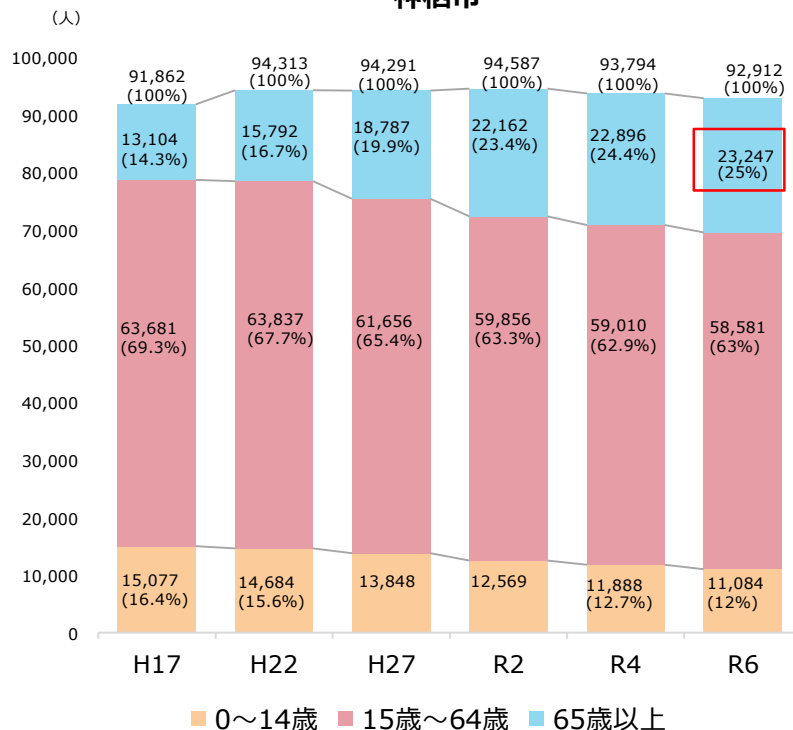
議題 2 市内の医療の現状等について

(1) データから見る市の医療情勢

年齢3区分人口

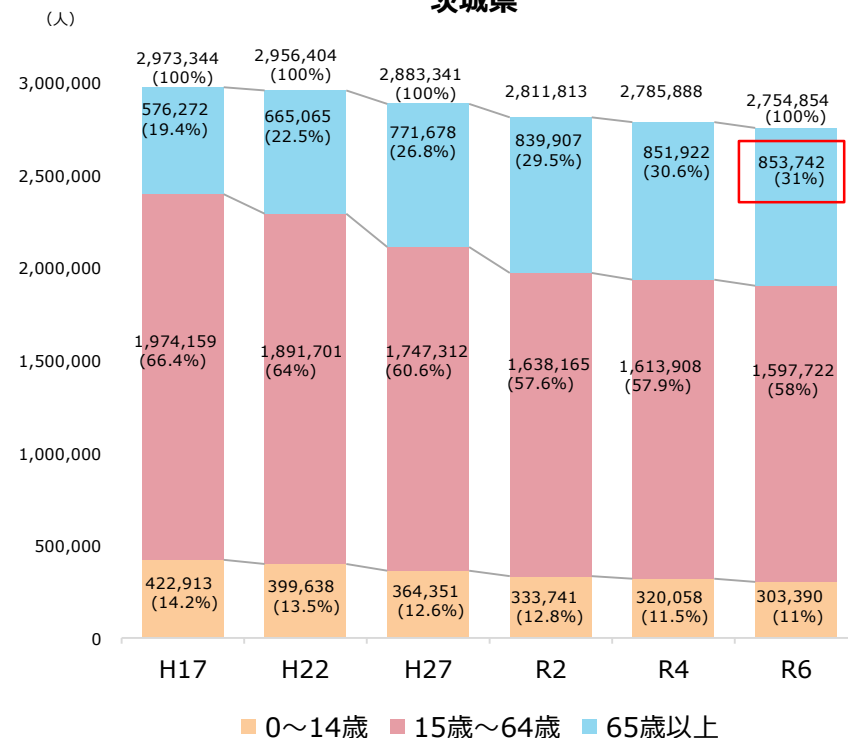
出所：茨城県常住人口調査 茨城県の年齢別人口（10月1日）※年齢不詳は除く

神栖市



総人口
93,434
R7.4末

茨城県



合計特殊出生率

全国・茨城県・神栖市 対比

	H30～R4(今回)	H25～29(前回)
神栖市	1.54	1.66
茨城県	1.34	1.46
全国	1.33	1.43

茨城県内上位

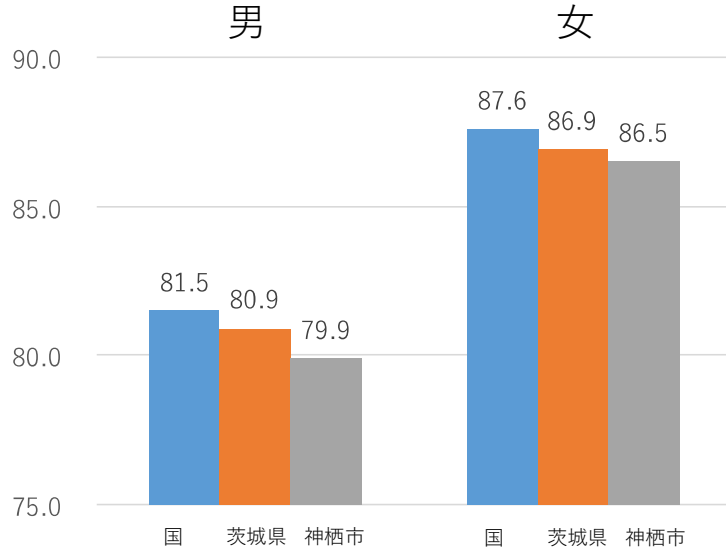
	H30～R4(今回)	H25～29(前回)
1位	神栖市 1.54	鹿嶋市 1.79
2位	つくばみらい市 1.53	東海村 1.71
3位	鹿嶋市、つくば市 1.49	神栖市 1.66

合計特殊出生率：1人の女性が生涯で出産する子どもの数を推定したもの

出典：厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市区町村別統計の概況」（R6.4.19発表）

平均寿命、主な死因と死亡比

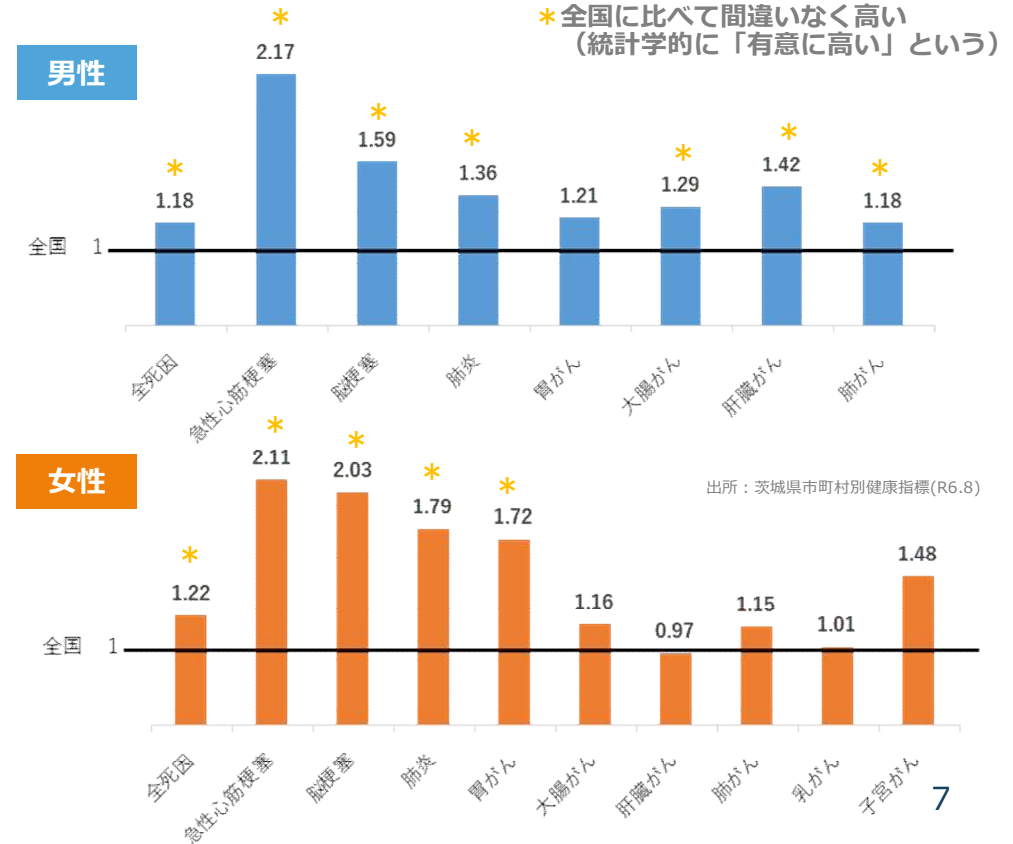
平均寿命



(出所)
平均寿命：厚労省 市町村別生命表 (R5.5.12公表)

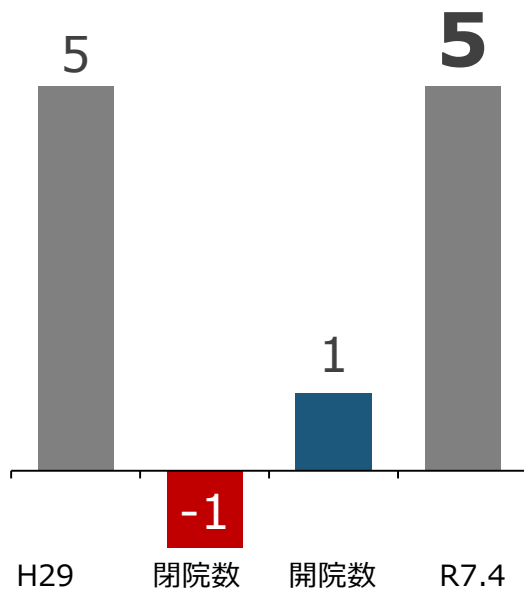
死亡比

神栖市の死亡率が「全国平均死亡率の何倍であるか」を男女別に示した数値



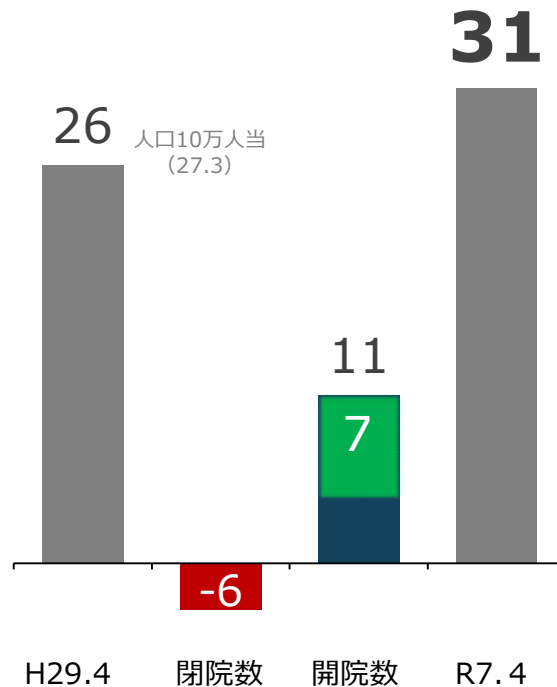
病院・診療所数の推移

病院数



診療所数

(単位：施設)



【参考】

R6 人口10万人当	
神栖市	34.0
鹿嶋市	43.1
茨城県	50.0

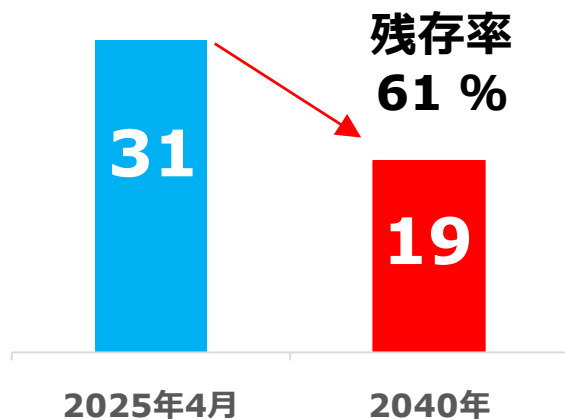
■：診療所開業支援制度（R元年～）を活用した数

診療所数（2040年予測）

診療所数

（単位：施設）

新規開業がなく、既存診療所の
管理者が80歳で引退し、承継
がないと仮定した場合



中学校区ごとの推移

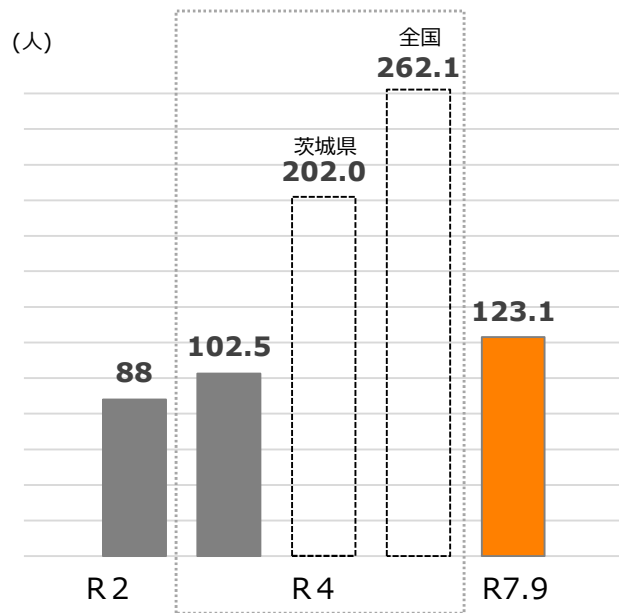
	2025年
神栖一中学区	4
神栖二中学区	10
神栖三中学区	3
神栖四中学区	5
波崎一中学区	3
波崎二中学区	3
波崎三中学区	2
波崎四中学区	1



2040年
3
6
2
3
1
1
2
1

市内常勤医師数の推移・偏在指数

市内医療施設に従事する常勤医師数 (人口10万人当)



R2・R4 医師・歯科医師・薬剤師調査

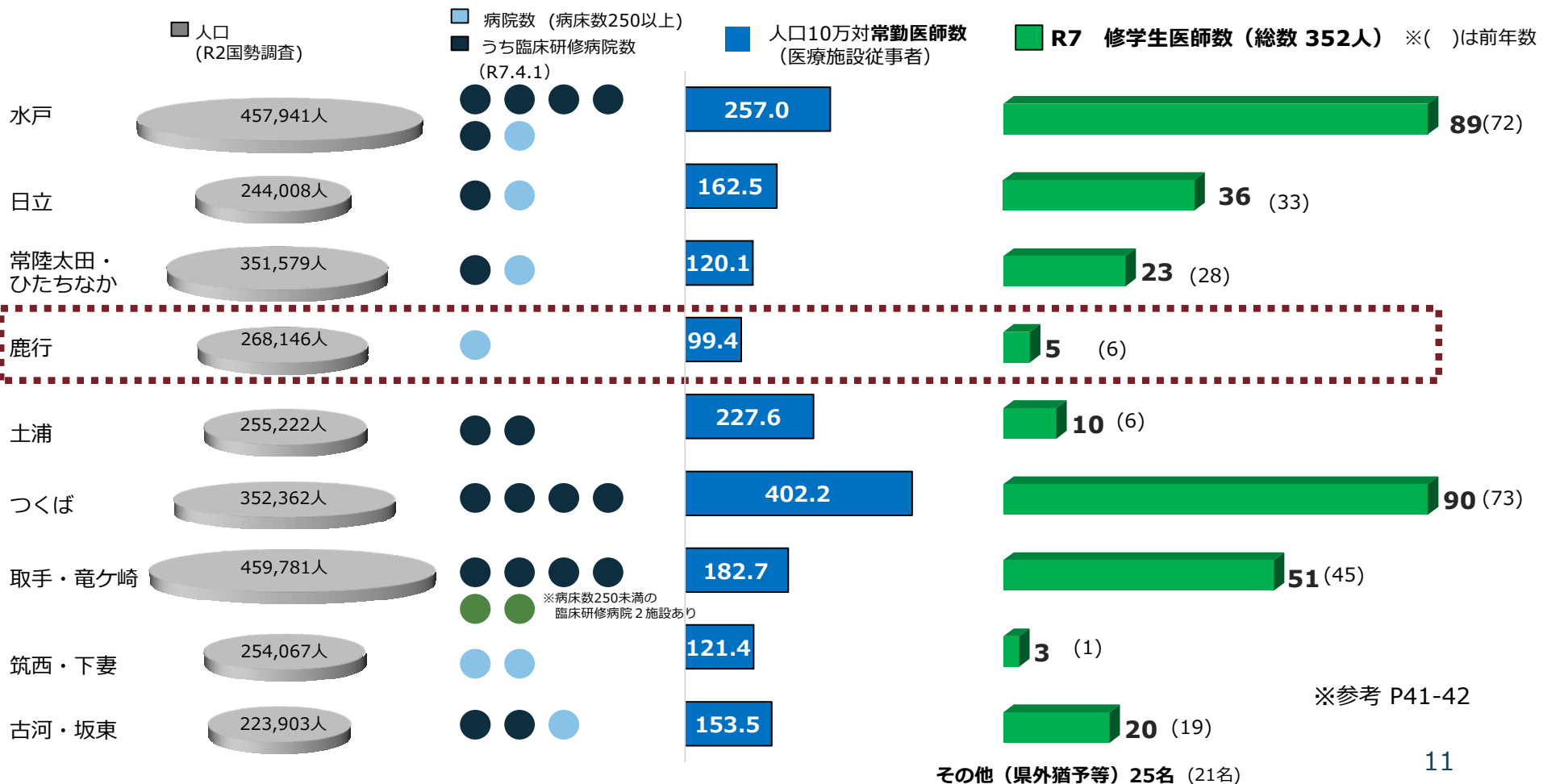
R7 コード内容別医療機関一覧 (R7.9.1)、神栖市人口 (R7.8月末)

医師の偏在指数

二次医療圏	医師偏在 指標	全国順位 (全330医療圏)	県内順位 (全9医療圏)	区域分類
水戸	231.2	94 ↗ 6	2	多数
日立	140.3	308 ↗ 11	7	少数
常陸太田・ ひたちなか	140.3	309 ↗ 8	8	少数
鹿行	137.2	315 ↘ -5	9	少数
土浦	184.4	204 ↘ -53	3	
つくば	337.7	23 ↘ -9	1	多数
取手・竜ヶ崎	173.3	235 ↘ -4	4	少数
筑西・下妻	153.0	284 ↗ 32	5	少数
古河・坂東	148.8	292 ↗ 20	6	少数

R6 茨城県医師確保計画策定時

茨城県修学生医師の二次保健医療圏別配置状況比較



市修学生の状況

(R7.4.1現在)

医 師 (合計 16 名)

医 師	卒後年数	人数	勤務場所
	7 年目	1 名	神栖市 ※
	4 年目	2 名	東京都・つくば市
	3 年目	1 名	日立市
	1 年目	2 名	宮崎県・水戸市
	小 計	6 名	

※R6.7月～ 神栖済生会病院

医学生	学年	人数	大学所在地
	既卒	1 名	R7医師国家試験受験予定
	5 年生	1 名	神奈川県
	4 年生	1 名	三重県
	3 年生	1 名	ハンガリー
	2 年生	4 名	東京都・徳島県
	1 年生	2 名	神奈川県・栃木県
	小 計	10 名	

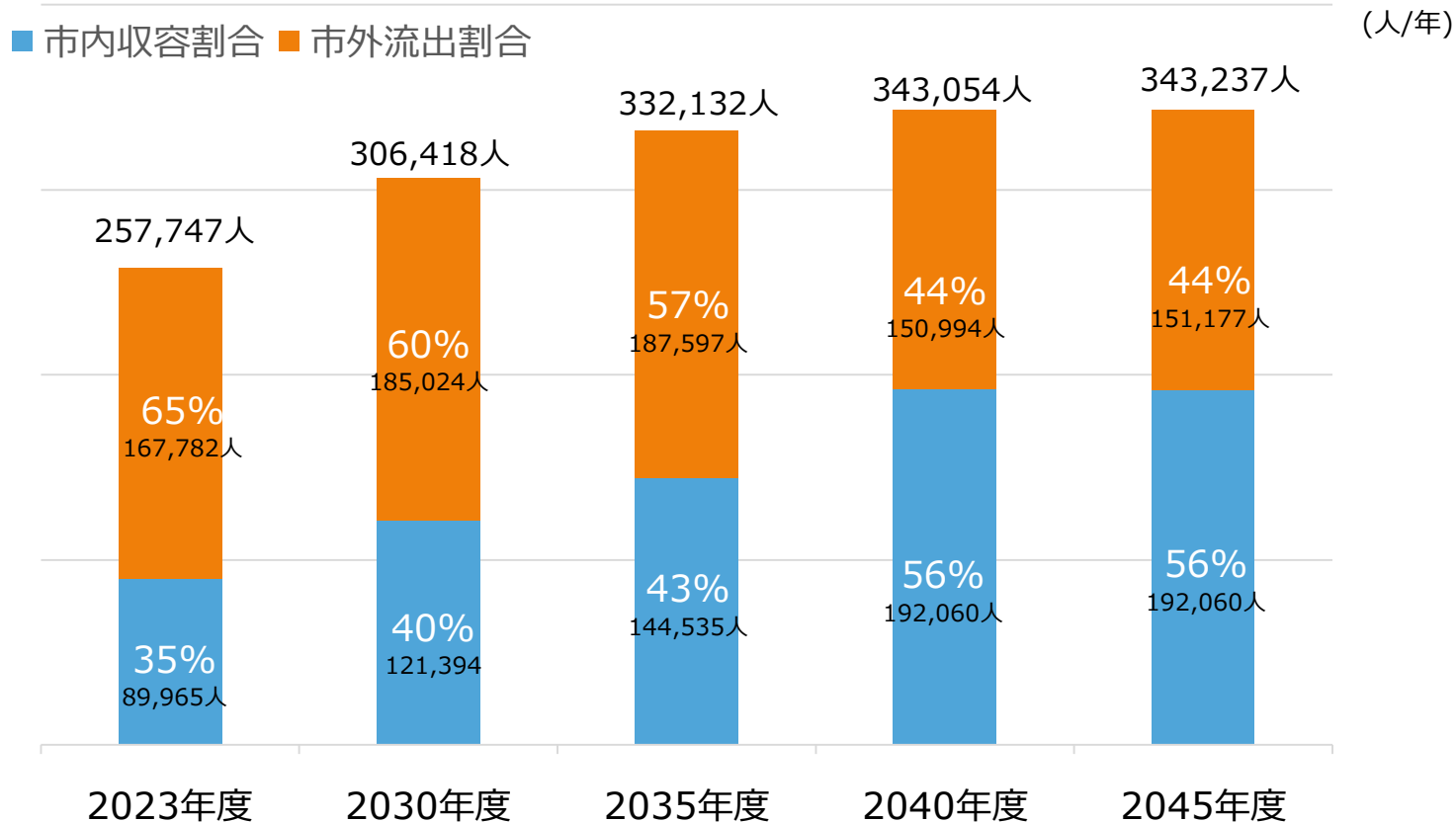
看護師 (合計 6 名)

看護師	卒後年数	人数	勤務場所
	4 年目	1 名	神栖市
	3 年目	1 名	
	2 年目	1 名	
	1 年目	1 名	
	小 計	4 名	

看護学生	学年	人数	学校所在地
	4 年生	1 名	千葉県
	2 年生	1 名	茨城県
	小 計	2 名	

※ほか義務履行終了7名

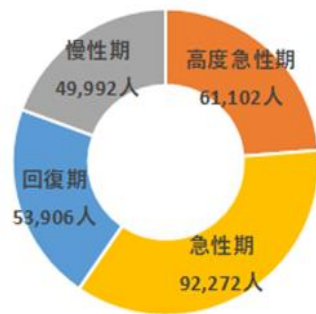
神栖市延入院患者数将来推計（全疾病総数）



(増床の内訳)

- ・白十字総合病院20床提供再開（2024年度）・鹿嶋ハートクリニック4床増床（2024年度）
- ・2035年度は、神栖済生会病院のファーストステップ56床増床
- 2040年度以降は、セカンドステップ115床増床が既に稼働しているものとして試算

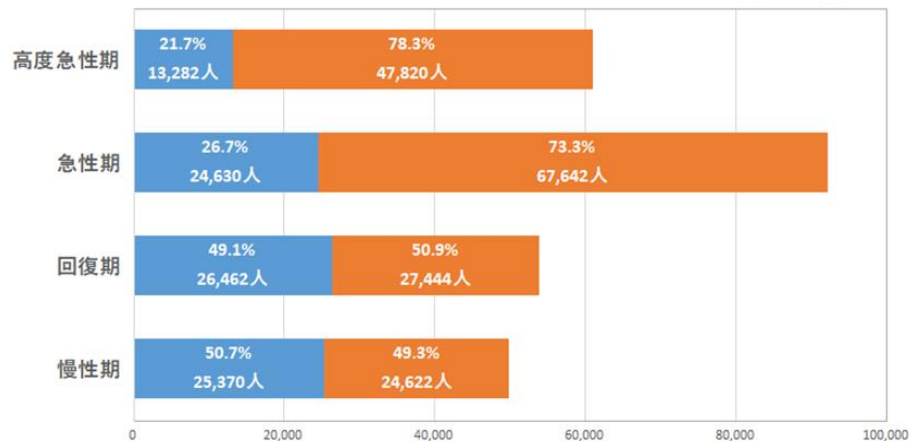
2023年度 重症度別延入院患者数推計



※端数処理などの関係で、前ページの
2023年度患者総数と誤差あり

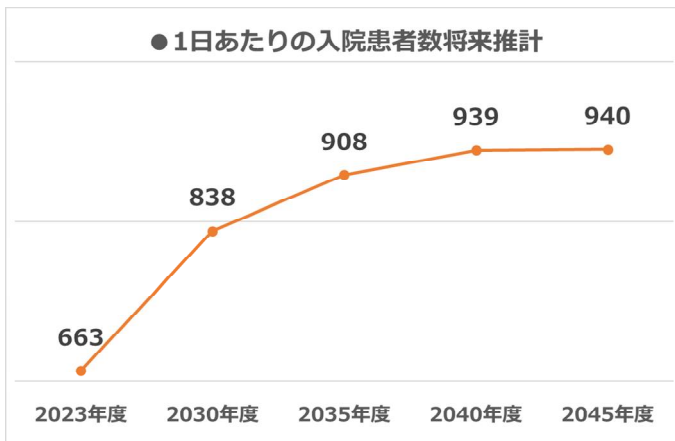
2023年度 重症度別市内外入院割合推計

■市内 ■市外



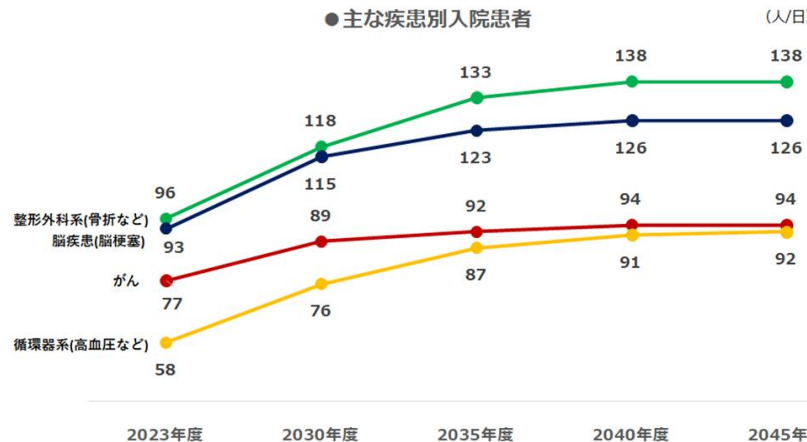
※入院診療単価・・・高度急性期 5万円以上／急性期 2：7万円以上5万円未満／回復期 2万円以上 2：7万円未満／慢性期 2万円未満

●1日あたりの入院患者数将来推計



●主な疾患別入院患者

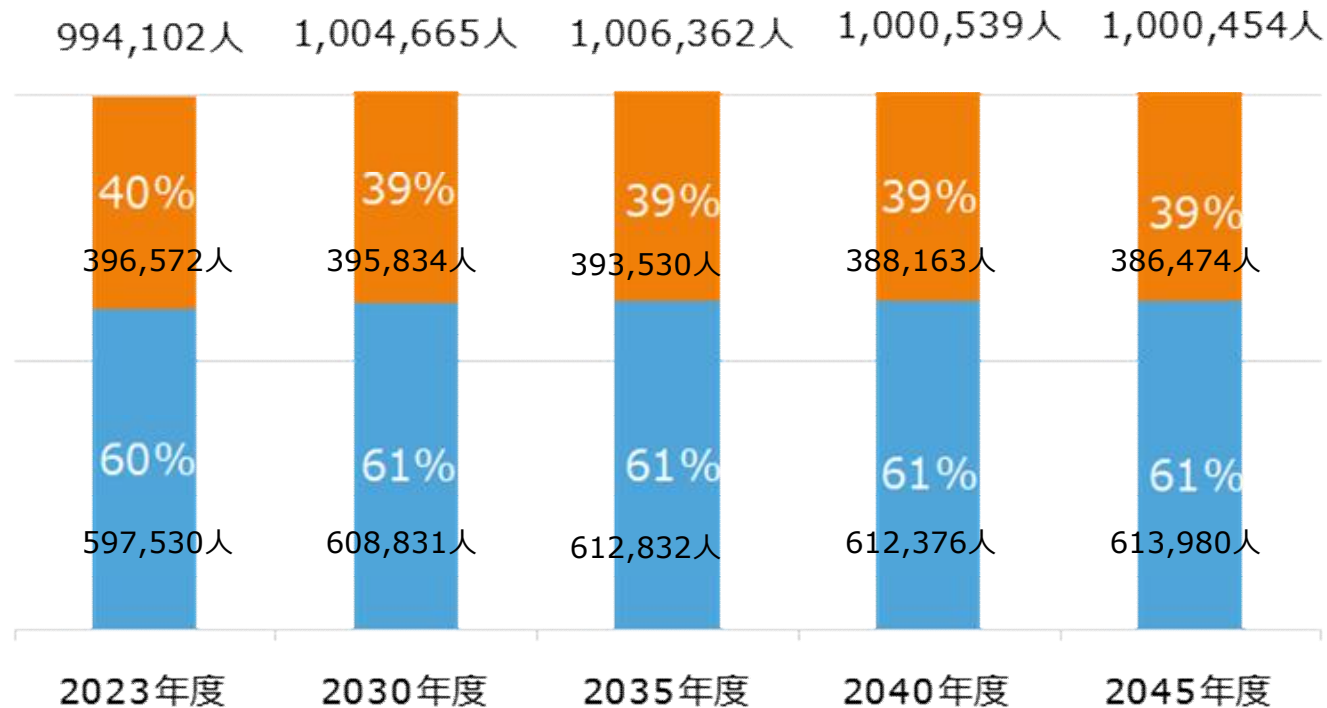
(人/日)



神栖市延外来患者数将来推計（全疾病総数）

■ 市内収容割合 ■ 市外流出割合

(人/年)



※ 2023年度の市内収容割合を維持するものと仮定した将来推計

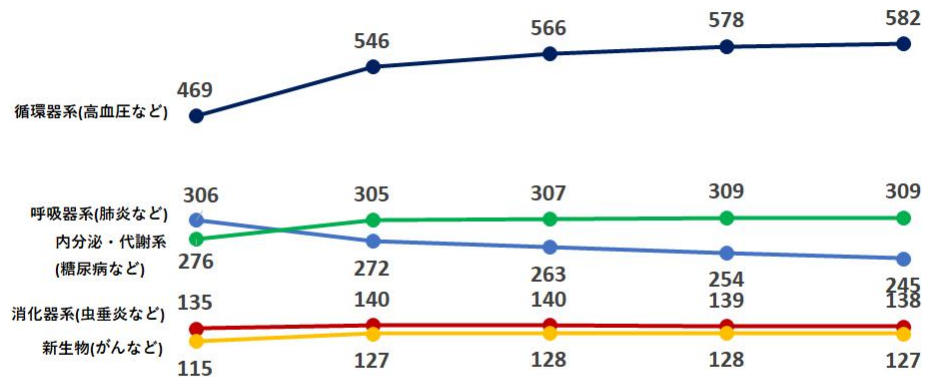
● 1日あたりの外来患者数将来推計



2023年度 2030年度 2035年度 2040年度 2045年度

● 主な疾患別外来患者

(人/日)



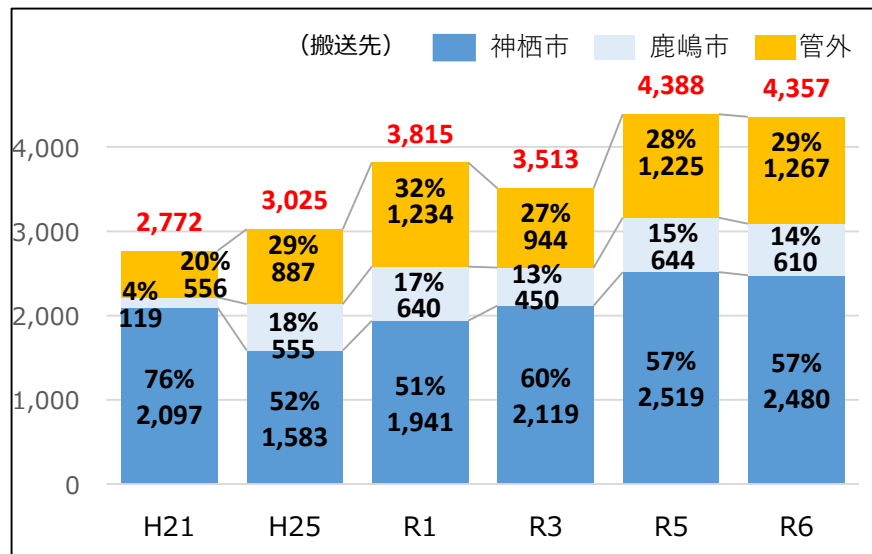
2023年度 2030年度 2035年度 2040年度 2045年度

議題 3 課題案件等の取組状況について

(1) 24時間365日の救急体制の整備について

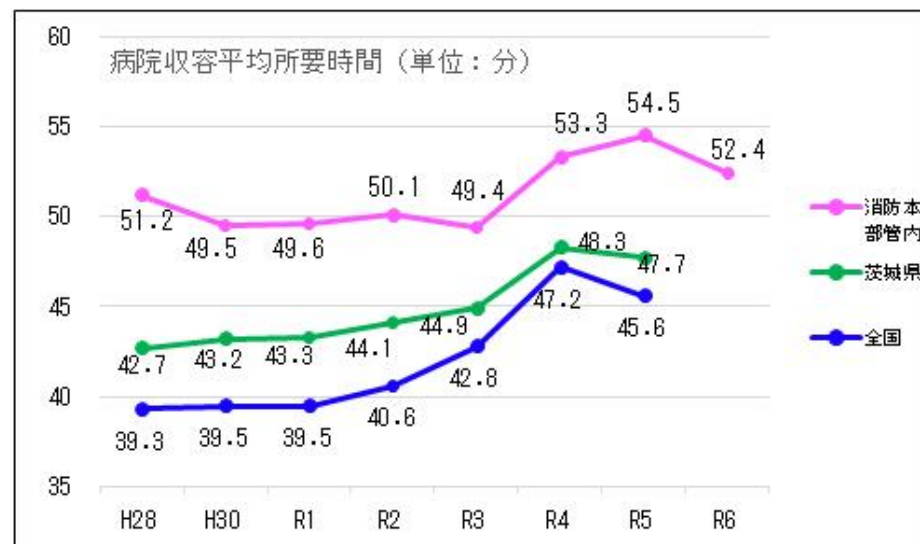
市内発生救急搬送データ

神栖市発生
救急搬送患者数（単位：人）

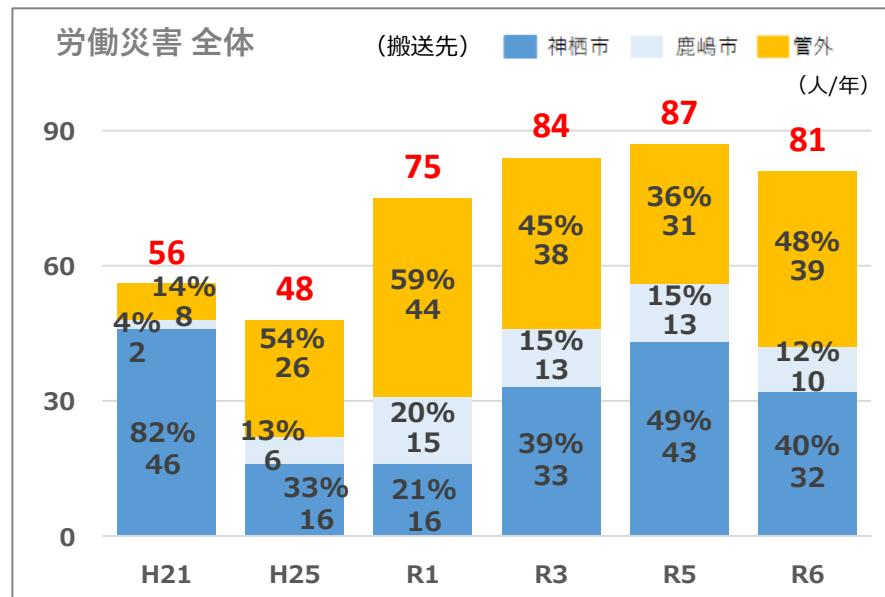


※神栖市内で発生した搬送事案の人数

鹿島地方事務組合消防本部管内
病院収容平均所要時間（単位：分）



神栖市発生 救急搬送患者数（うち労働災害）



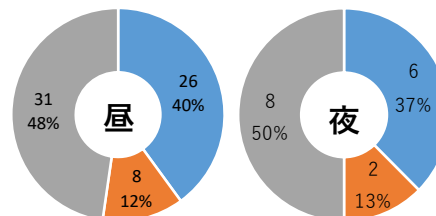
※神栖市内で発生した搬送事案の人数

R 6 搬送先 昼夜の比較

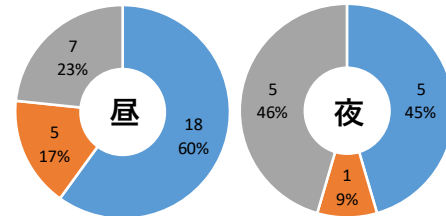
■ 神栖市 ■ 鹿嶋市 ■ 管外

※昼／8:01～17:59 夜／18:00～8:00

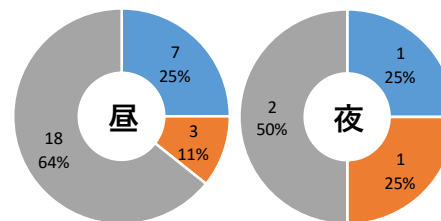
労災全体



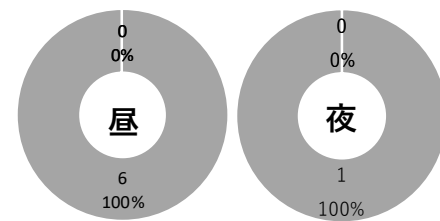
軽症



中等症

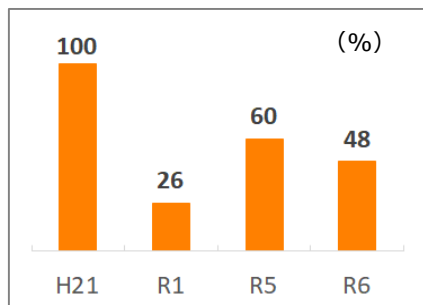


重症

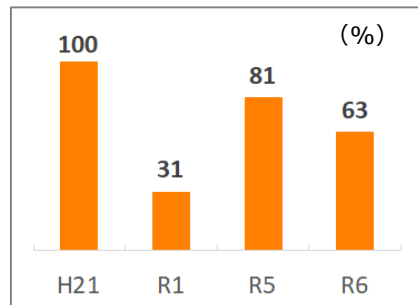


H21の市内受入を100とした場合の受入能力の比較

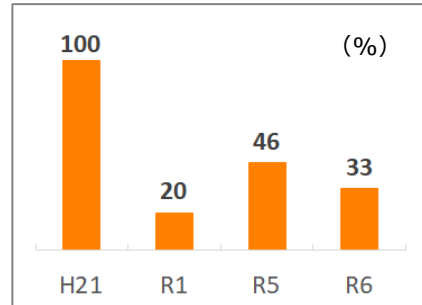
労災全体



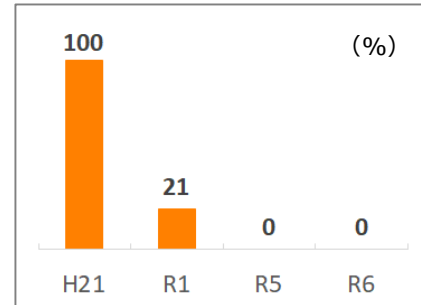
軽症



中等症



重症



- 第2回、第3回連絡調整会議において、24時間の救急体制について問題提起あり。
- 救急医療ワーキングチーム会議で救急体制の現状分析を行い、産業都市にふさわしい医療体制づくりに向けた実効策を協議。
- 令和6年度は2回開催し、**24時間の救急体制、小児救急、搬送時間短縮**のほかに、当地域で搬送困難となっている「**開放骨折、消化管出血**」の対応を協議。

R6第2回会議 開催結果

開催日時：令和7年2月20日（木）17時～19時

出席者：28人（市内医療機関13、消防本部3、事務局12）

結果：①24時間の救急体制の整備について

→ 医療機関へ、不応需が発生しやすい「**日勤・夜勤の医師の交代時間**」における**受入体制の工夫**について要請

②救急隊から医療機関への受入要請に係る時間短縮について

→ ホットライン未対応の医療機関から、可能な範囲で**医師が電話に対応できるよう検討**

③小児救急体制について

→ **地域小児救急センターであっても**、内科系医師が中心であるため、**外傷系の受入が困難**との課題認識を共有

④開放骨折、消化管出血について

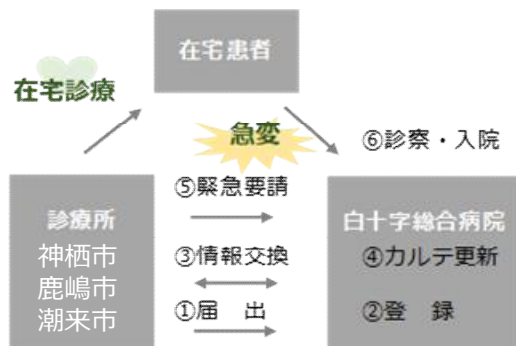
→ 消防本部の要請を踏まえ、まずは**専門部会を開催し、具体策を検討**

市内医療機関の整備状況について

白十字総合病院

- 24時間体制で在宅患者の緊急入院を受け入れる在宅療養後方支援病院であり、市内診療所と連携し、診療所の届出をもとに、患者情報を電子カルテに登録して急変時に備えている。
- 令和6年4月に、茨城県保健医療計画（在宅医療）にかかる「在宅医療における積極的役割を担う医療機関」に選定。
- 令和6年11月に、回復期等新病棟が供用開始。
- 新病棟のうち回復期・慢性期病棟130床については全病床稼働し、1階の急性期34床については、本年9月から本格稼働。
- 上記により従前の病棟と併せて304床フルオープン。
- 上記の34床を念頭に「地域包括医療病棟」への転換も視野に入れ、**高齢者の救急患者の受入強化**を図っていく方針。
- 令和7年4月に、**皮膚科の常勤医師1人が赴任**。市内皮フ科クリニックと連携・協力し、熱傷・薬症患者の受入強化を図っていく方針。

在宅患者のサポート体制



地域包括医療病棟における医療サービスのイメージ



出典：令和6年3月5日 令和6年度診療報酬改定の概要（医科全体版）資料

- ハイケアユニット（HCU）や手術室を増設し、令和6年11月から高度急性期病床23床の病院として新たにスタート
- かかりつけ患者のウォークイン救急の受け入れ開始（土曜夜間、日曜、祝日）
- 令和7年5月から**救急告示病院**となり、さらに**循環器ホットラインの24時間365日受入体制を開始**

病院化による効果等

【実績（2025年4月）】

- ・病床稼働率：97.2% ※19床換算では117.7%
- ・HCU利用率：100.8%
- ・救急車受入台数：29台 ※前年同月比 131.8%
- ・循環器ホットラインの24時間365日受入体制開始

【今後の取組内容】

- ・HCU施設基準の取得に向けたスタッフの教育、体制強化
- ・緊急心臓血管外科手術に対応できる体制づくり



ハイケアユニット（HCU）

○救急車の受入は年間2,000台超。

○週3日、日本医科大学千葉北総病院から救急科医師の派遣を受け、救急医療の充実を図っている。

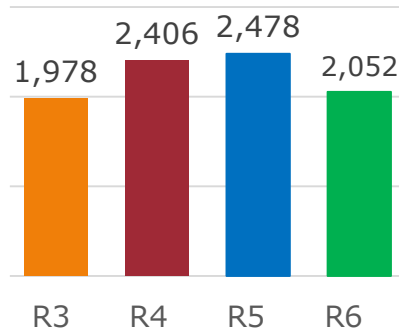
○令和5年度から東部コンビナート関連企業との地域医療連携室を窓口とした専用受入連絡先を設置。

○小児科については、鹿行南部地域における小児救急拠点病院として24時間365日体制で対応。

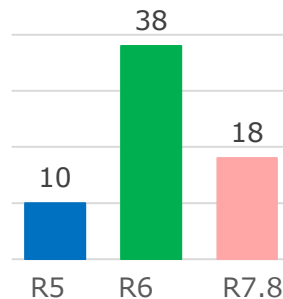
○総合診療医6人による訪問診療を実施。市内医療機関と連携し、緊急時に対応。

○新病院整備については、病院の経営立て直しを優先しつつ、新病院整備に向けて着実に進展していけるよう、市は支援を継続。

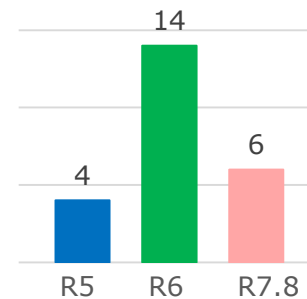
救急車受入台数



専用受入連絡による
労災患者の受入数



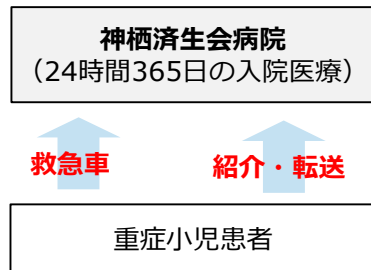
熱傷・薬傷患者受入数



(2) 小児医療体制の強化について

- 第3回連絡調整会議、企業との懇談会等で小児医療体制について問題提起あり。
- 市内医療機関と連携・協力し、**令和6年4月から新体制をスタート**。神栖済生会病院は地域小児救急センターのミッションに専念。
- 昨年度末に関係医療機関にアンケートを実施し、令和7年5月に**小児診療体制に係る意見交換会**を開催。
- 神栖済生会病院は市内診療所とのさらなる連携強化を図るため、令和7年9月に市内外医療機関と**小児科症例検討会**を開催。

地域小児救急センターのミッション



見直し後の軽症の小児救急体制

- 日曜：小児科標榜診療所
(鹿島医師会休日当番医 → 成人+小児)
- 祝日：鹿島医師会休日当番医 → 成人+小児

重症患者
紹介・転送

神栖済生会病院
土浦協同病院 など

	月～土	日	祝・年末年始
8:30～20:00 (昼休等含む)	小児科標榜医療機関	小児科標榜医療機関 鹿島医師会休日当番医 9:00～16:00	
20:00～23:00	鹿嶋市夜間小児救急診療所 (365日)		
23:00～翌8:30	神栖済生会病院 (365日)		

■意見交換会で寄せられた意見

- ・済生会病院小児科の存在は地域にとって心強い。継続には小児科医の負担軽減が不可欠であり、診療所として連携・協力していくことが重要。
- ・年末年始の感染症流行期には、長時間待ち時間が発生した。
- ・鹿嶋市夜間小児救急診療所の受診が少ない。
- ・過去に実施されていた「小児医療地域連携会」のような症例報告会は有益だった。

○神栖済生会病院小児科では、さらなる連携強化のため、令和7年9月に市内外医療機関と**小児科症例検討会**を開催

○小児外科の診療体制強化が、今後の課題

(3) 情報発信・提供の強化について

- ・第3回連絡調整会議において、神栖市に赴任する社員の不安を和らげるため、医療政策の取組の情報発信強化の要望有り。
- ・また、土地勘の無い転入者への医療機関の案内についても要望有り。

情報発信・提供の実施状況

【全国向け】

- ・HP
- ・X、メルマガ、LINE等SNSの活用
- ・パブリシティ活動（NHK水戸、茨城新聞など）
- ・きらっせプロジェクトのパンフレットの配布
- ・地域医療シンポジウムの開催
- ・地域医療トーク＆トークの開催
- ・厚生労働省主催「上手な医療のかかり方アワード」

【市民・市内企業向け】

- ・市広報紙への掲載
- ・冊子「かみすの医療」の配布
- ・地域医療トーク＆トークの開催
- ・企業との懇談会、企業・医療機関・行政連絡調整会議での意見交換
- ・神栖市健診パンフレット、茨城県医療MAPデータの送付
- ・小児救急体制の変更に係るチラシの配布



さらなる強化のため、下記の事項に取り組む

- パブリシティ活動の促進
- SNSやショート動画の活用
- 情報発信・提供の内容や方法について引き続き検討

(4) 労災救急患者の受入推進のための熱傷・薬傷症例検討会について

- 産業都市特有の疾患である「熱傷・薬傷」の基本的な治療法を学び、救急患者の受入を進めようとの市内医師からの提案により、症例検討会がスタート。
- 令和7年度も引き続き「熱傷・薬傷」の**基本的な理解を深めることをテーマ**に開催する。

令和7年度の予定

- 1 対象者 市内病院・診療所の医師・看護師・コメディカル・事務職、消防本部、市修学生、企業、市職員
- 2 開催方法 会場参加またはウェブ参加 ※開催後にYouTubeで視聴可（関係者のみ）
- 3 研修内容 熱傷・薬傷（化学熱傷）の基本的なことについて
- 4 研修計画

第6回 熱傷・薬傷症例検討会	
日 時 会 場	令和7年9月18日（木）18:00～ 神栖市保健・福祉会館（保健センター）
講 師	筑波大学附属病院 高度救命救急センター長 井上 貴昭 教授
演 題	熱傷初期診療のABC
座 長	神栖済生会病院 副院長 西 功 先生

終了

第7回 熱傷・薬傷症例検討会	
日 時 会 場	令和8年1月22日（木）18:00～ かみす防災アリーナ
講 師	白十字総合病院 皮膚科医 須田 安由美 医師
演 題	未定 ※熱傷・薬傷（化学熱傷）初期対応の基本について 講演を予定
座 長	皮フ科内科クリヤマクリニック 院長 栗山 源慎 先生

※開催結果

参加人数112名（うち会場参加33名）
（うち企業参加27名）

※11月上旬から申込み開始予定

開催実績

○令和5年度から**全5回**開催し、**延べ739人**が参加

日付		講師など	場所	参加人数
第1回	R5.09.22	田中 完 (神栖産業医トレーニングセンター統括指導医) 東 修智 (旭中央病院形成外科医長)	はさき保健・ 交流センター	176名 (うち会場参加36名) (うち企業参加9名)
第2回	R5.11.16	盛山 吉弘 (土浦協同病院皮膚科部長) 原 義明 (日本医科大学千葉北総病院救命救急センター部長)	かみす防災 アリーナ	165名 (うち会場参加55名) (うち企業参加27名)
第3回	R6.01.25	林 卓哉 (神栖産業医トレーニングセンター センター長) 田中 完 (神栖産業医トレーニングセンター 統括指導医)		128名 (うち会場参加36名) (うち企業参加33名)
第4回	R6.10.03	山元 修 (鳥取大学名誉教授)		125名 (うち会場参加35名) (うち企業参加26名)
第5回	R6.12.04	佐々木 淳一 (慶應義塾大学医学部救急医学教授)		145名 (うち会場参加49名) (うち企業参加34名)

(5) 外国人患者の受入推進について

○農業や漁業をはじめ、様々な産業分野で外国人が市内に従事していることを踏まえ、企業・医療機関・行政連絡調整会議で提起された「**外国人患者に対するスムーズな受診対応**」の実現に向けて、調査・検討、視察を行う。

	R6	R7	R8
分科会	第1回 ・進め方	第2回 ・実態調査(案)	第3回 ・次年度進め方
事業		○実態調査 → 市内の現状と外国人ニーズの把握 ①外国人へのアンケート (R7 10月中) ②医療機関へのアンケート (") ③外国人と医療者の座談会 (R7 12/1) ○先進地視察 → 先進地の取組状況を学ぶ 成田赤十字病院の視察 (R7 11/18) ○研修会 → 体制整備やリスク管理を学ぶ 専門家を招き、勉強会を開催 (R8 1/29)	
アウト プット		コーディネーター養成 ＜マニュアル整備＞	

アウトカム

外国人労働者の
医療体制整備

外国人材確保の
優位性向上

議題 4 その他の情報提供について

(1) 産業医学基礎研修会、産業医トレーニングセンターについて

産業医学基礎研修会

- きらっせプロジェクトにおいて、**地域の資源として優秀な産業医**が多数いることに着目
- 分科会を開催し、その**特性を生かして産業医研修会スタート**にチャレンジすることとしたもの
- 産業医育成と同時に、産業都市神栖を**全国の医療界にアピール**していくことを目的に事業化

年 度	受講者数	県内	県外	備考
R 2	637	258	379	39都道府県 から参加
R 3	687	315	372	
R 4	906	295	611	
R 5	913	288	625	
R 6	979	165	814	
R 7	383	72	311	8-9月分のみ集計
合 計	4,505	1,393	3,112	

25社

協力企業

東部コンビナート

- ・A G C
- ・鹿島石油
- ・信越化学工業
- ・三菱ケミカル
- ・ENEOS マテリアル
- ・J E R A
- ・カネカ
- ・ユポ・コーポレーション
- ・クラレ
- ・ライオンケミカル

西部地区

- ・花王
- ・D I C
- ・中国木材

波崎地区

- ・LSI メディエンス
- ・三洋化成工業
- ・ダイキン工業
- ・ケイミュー
- ・エーザイ
- ・横河 NS エンジニアリング

その他

- ・鹿島埠頭
- ・消防本部
- ・日本製鉄
- ・鹿島アントラーズ
- ・セブンイレブン
- ・ウエルシア

令和7年度研修会日程

前期研修	8月30日(土)、31日(日)	
後期研修	令和7年	協力企業等 15社
	9月20日(土)、21日(日)	工場見学：JERA、鹿島アントラーズFC 座学：クラレ、鹿島地方事務組合消防本部
	10月 4日(土)、 5日(日)	工場見学：ENEOSマテリアル、鹿島石油、ダイキン工業 座学：横河NSエンジニアリング
	11月15日(土)、16日(日)	工場見学：カネカ、DIC、エーザイ 座学：鹿島埠頭
	令和7年	
	1月17日(土)、18日(日)	工場見学：三菱ケミカル、花王 座学：ケイミュー

神栖産業医トレーニングセンター

- 令和4年度、白十字総合病院内と神栖済生会病院内に設置。鹿島臨海工業地帯の中で幅広い業種の実務研修を提供。
- 令和7年度から神栖ワーカーズクリニック内にも設置。
- 全国の関係者の間で、**神栖市で行われている研修体制が注目されており**、社会医学系専門医を目指す**専攻医などの新規就業者が増加**している。

	R4.4	R5.4	R6.4	R7.9
就労医師数	3人	9人	12人	16人

(2) 看護職等の確保について

看護職・歯科衛生士合同進学・就職相談会の開催

○離職率が高く不足傾向にある**看護職等の人材確保**を図ることを目的に相談会を実施。

○看護職（看護師・准看護師・保健師・助産師）及び看護補助者としての就職（新規・復職・転職）希望者、看護学生、看護学校等への進学希望者を対象に市内医療機関や学校の相談ブースを設置し、研修・教育制度や求人情報等を案内する。
また、復職希望者向けに技術研修を実施。

令和7年度 開催概要

- 1 開催日 令和7年9月27日(土)
- 2 開催場所 かみす防災アリーナ
- 3 参加施設 神栖済生会病院
白十字総合病院
鹿嶋ハートクリニック、
渡辺病院
神栖メディカルクリニック
白十字看護専門学校

▶▶ **歯科衛生士確保**のため、
神栖市歯科医師会が新規参加

- 4 来場者 看護職（資格なしを含む）6名 歯科衛生士 3名
看護学生 2名 歯科衛生士学生 1名

開催実績	来場者数	就職等実績
令和4年度 R4.12.11(日)	5名	1名
令和5年度第1回 R5.9.2(土)	8名	0名
令和5年度第2回 R6.2.12(月・祝)	15名	4名
令和6年度第1回 R6.5.25(土)	10名	1名
令和6年度第2回 R6.12.15(日)	6名	2名
令和7年度 R7.9.27(土)	12名	-

(3) メルカリ、アントラーズとのコラボについて



NHK水戸
「メルカリ・アントラーズ
・神栖市で協定締結」

神栖市若手医師 きらっせプロジェクト

研修プログラムの
企画・開発・実行

教育研修活動支援

情報発信

就業支援

医師不足
打開へ
企画・実行



プロサッカーチームと
医療は
共通点・連携分野が
多数存在

日々の研鑽
集中力
チームワーク
元気・喜び・感動

メルカリ、鹿島アントラーズFC

- 人材育成、DXのノウハウの提供
- 地域の誇り、憧れを身近に。ワクワク感創出
- 医療提供の相手方としてのプロスポーツ選手
- アントラーズのスポーツ整形の技術は
相互研鑽の機会

きらっせプロジェクト特別プログラム

- | | |
|----------|---------------------------|
| 特別プログラムⅠ | 看護学生の獲得、育成（白十字看護専門学校にて実施） |
| 特別プログラムⅡ | 産業医の育成・確保 |
| 特別プログラムⅢ | 地域医療を志す医学生との交流促進 |

R7
スタート

メルカリ、鹿島アントラーズFCとの包括連携協定による
きらっぜプロジェクト特別プログラム

特別プログラムⅠ

看護学生の獲得、育成（白十字看護専門学校にて実施）

① 特別授業

- 10/ 7（火）サッカーや軽運動を通じたコミュニケーションやチームワーク（1・2年生）
- 10/31（金）アカデミーのフィジカルコーチによる運動実践と講話（2・3年生）
- 2/24（火）アントラーズスポーツクリニックのトレーナーの現場のお話（全学年）

② 特別講演

- 7/26（土）白十字看護専門学校オープンキャンパス
元鹿島アントラーズ選手 赤崎 秀平さんの講演

③ 看護学生のボランティア活動

- 9/13（土）メルカリスタジアムでの熱中症予防啓発



NHK水戸
「赤崎さん講演」



特別プログラムⅡ

産業医の育成・確保

- ①9/20（土）産業医研修会における鹿島アントラーズF C
での実地研修受入（メルカリスタジアム）



健康経営の取組みを学ぶ座学



メルカリスタジアムの施設見学

- ②10/5（日）全国から来訪する受講者への地域の魅力P R
のための観戦ツアーの実施

特別プログラムⅢ

地域医療を志す医学生との交流促進

- 地域の魅力P Rの一環としての観戦ツアーの実施（調整中）

(4) 地域医療トーク&トークの開催結果について

- 昨年の地域医療シンポジウムで発表した「神栖宣言」の実現に向けて、地域医療トーク&トークを開催
- 学生、市民、医師等、地域の関係者が意見交換を通じて、意識啓発を図るとともに相互理解を深めた

開催結果

開催日時：令和7年7月6日（日）14時～17時

場 所：かみす防災アリーナ 大会議室

参加者：36人（学生10人、市民10人、医師10人、医療スタッフ4人、神栖市2人）

内 容：（1）グループディスカッション

テーマ1「ACP（人生会議）について」

テーマ2「産業都市に求められる医療について」

（2）全体意見交換

（3）交流会

結 果：ACPの必要性や神栖市で注力すべき医療分野等について議論が交わされた。
また、医療体制の充実に向けては、それぞれの立場で貢献できることは何かと
いった点で、活発な意見交換が行われた。



グループディスカッションでの主な意見

テーマ1「ACP（人生会議）について」

- 議論する場を持ち、身近な人の価値観を理解しておくことは重要
- 我々（医療者側）も勉強不足であり、臨床現場での教育も必要
- 市民、医療者、行政で協働し、ACPの文化を作ることが大切（ACPが会話や関係性の構築のきっかけにもなる）
- ACPは人生の段階ごとで変わる。家族と何度も話し合うことが大切
- ACPがあると医師としても家族としても治療方針の決断がしやすい

テーマ2「産業都市に求められる医療について」

- 「24時間の救急医療体制」や「産婦人科」が不足している
- 救急医療体制の整備が必要（遠くの病院に運ばれるものという感覚を持っている）
- 労災に対応できる体制づくりや、外国人労働者への特徴的な医療に対応できる連携体制の促進が必要
- 小児医療に力を入れる必要があると思う
- 市民は健康意識を高め、医療者は適切な情報発信で市民を安心させることにより医療体制の充実に貢献できると思う

地域医療シンポジウム



日 時	令和6年10月13日（日） 10:00～20:00 10月14日（月・祝） 9:30～11:45
場 所	シンポジウム・・・かみす防災アリーナ ホール 交流会・・・・・・アトンパレスホテル国際館ルクソール
参加者数	199人（一般119人、学生31人、主催26人、事務局23人）
概 要	神栖市若手医師きらっせプロジェクトとT A O医師団（地方創生医師団）の共催により、地域医療を志す医学生や若手医師を応援し、ともに学び、働き、活躍する環境や体制づくりに資することを目的に、地域医療シンポジウムを開催。市内外から医療従事者や学生、自治体職員など約200人が集い、地域医療の課題や関係機関の連携を深める必要性などについて活発な議論が交わされた。最終日には2日間の総括として神栖宣言を発表した。

(全 体)

地域医療を志す医師が思う存分活躍できる環境づくりを進めるため、

○地域医療の舞台となる地域の様々な主体は、互いに尊重し合い、それぞれの思いに触れよう

○地域医療を志す者、牽引する者、サポートする者、支えられる者、それぞれの持てる力を引き出し、高め合おう。
そのためにも、本音で話し合える場を継続して持とう。特に、地域医療を志す者を育て、励まし、鍛えるのは市民であることを再認識しよう

○市民、医療機関、行政、学生、指導者は、このシンポジウムで得た感動を忘れず、神栖宣言の趣旨を心に刻み、
地域医療を志す者が学び、働き、活躍するフィールドづくりに全力を尽くそう

(神栖市)

神栖市は、神栖市若手医師きらっせプロジェクトを推進し、地域に隠れている様々な思いを、具体的でポジティブな力に変えて発信していこう。発信に当たっては、市民の思いを踏まえ、この地でのやりがいを明示するとともに、情報を受け止める医師に自分が求められていることを伝えていく

地域の関係者が一つに繋がっていけるよう、大人の事情はさておき、思いをぶつけ合う場を来年度も開催する

医療機関は院内のスタッフが信頼し合い、チームとなって働き、生きがいを感じられる環境づくりに全力を尽くす

参考資料：企業の皆さんからの要望・提言等と取組状況一覧

区 分	要望・提言等	現状、取組状況等
救急医療	・ 24H365日の対応。特に土日、夜間対応 ・ 目標を設定して、時間短縮、収容率向上を ・ 軽症患者は地域の医療機関で受け入れを	○救急医療ワーキングチーム会議での協議、検討 ・ 収容所要時間、市内受入数・割合を分析 ○鹿嶋ハートクリニック - R7.5.1 救急告示病院&24H365 日救急体制開始 ○R7 開放骨折、消化管出血をテーマに協議
労働災害	・ 専門的、高度な治療の提供 ・ 事例を分析して、様々なケースに対応準備を ・ 集中的な薬傷の症例検討会の開催 ・ 薬傷に対応できる診療科の設置 ・ 止血や心臓マッサージなどの応急処置研修	○労働災害救急受入実態分析 ○熱傷、薬傷症例検討会の開始、継続開催 ○皮膚科内科クリヤマクリニック／労災指定認定 ○白十字総合病院／皮膚科常勤医配置
病院／診療所整備	・ 診療所の誘致を ・ 計画的、継続的な体制整備。更なる体制充実 ・ コンビナートにふさわしい安心できる体制づくり。労災、救急に対応可能な医療施設整備 ・ 医療が原因の離職のケース有。特に若い世代 ・ 診察予約がとりやすいなど医療の充実している地域は安心感があり、居住しやすくなる ・ 通院用送迎バスの整備 ・ 求める診療科・診療分野の整備を 【皮膚科、整形外科、耳鼻科、心療内科、眼科、産科・婦人科、外科、内科、歯科、口腔外科】	○診療所開業支援制度創設 ・ R5 小沢眼科神栖診療所が開設 ・ 小児科診療所が2施設開院 ○医療機能分化・連携再構築整備事業補助 ・ 白十字（慢性期・回復期病棟）304床フルオープン ・ 鹿嶋ハート病院化 ○鹿行南部地域産科医療体制の維持強化支援 ○医療機関との意見交換会等における情報共有 ○心療内科医、精神科医の確保のための活動継続
小児医療	・ 若い世代が多い。小児医療の強化を ・ 診察の待ち時間長い	○地域小児救急センター（神栖済生会病院）と市内診療所、市が連絡調整会議を設置
在宅医療	・ 在宅分野での企業の参加と貢献とは？	○在宅医療ワーキングチーム会議での協議、検討 ○R4.12 白十字総合病院／診療所と在宅患者情報共有による、急変時の速やかな入院対応スタート ○エンディングノート等によるACPの普及
外国人	・ 外国人労働者のスムーズな受診対応を	○R6 から分科会、R7 は研修会を開催 ○宗教や文化の違い／健康診断の経験がない国柄の理解／保険証使回し、医療費の不払いの防止
医療人材確保	・ まず神栖市の魅力発信の強化を ・ 診療科毎に分析し、方針を定めてはどうか ・ 医師不足、病院不足解消の実感が得られるよう引き続き対応をお願いしたい ・ 第3次市総合計画の推進をお願いしたい ・ 若手を育成する手法で。住んで良さがわかる地域特性を踏まえた定着策が大事では	○若手医師きらっせプロジェクトによるインセンティブ制度創設、情報発信 ○医科大学との連携（順天堂大学、筑波大学、日本医科大学、東京女子医科大学ほか） ○R4 から市内小中学校での医療教育の実施 ○メルカリ、アントラーズとの包括連携協定により看護職の魅力発信強化のため特別授業等を実施
情報提供	・ 工夫した情報提供／例 医療機関マップ、休日当番表の社員食堂掲示、SNSの活用 ・ 社員、市民の健康づくりのあり方の情報共有、啓蒙に極力協力したい ・ 不安を和らげるため、取組の情報発信強化を ・ 土地勘ない転入者へ上手な医療機関案内を	○広報かみす、かみすの医療、HP等に医療の現状を提示、救急サポートシステムの案内掲載 ○幹事会社を通じて、医療機関の一覧・地図・救急サポートシステム等を掲載している健診パンフレット及び茨城県医療MAPのデータを配布